

てすぐ練習をさぼる。また主将に報告する者はいい方である。ひどいのは、無断で休むというのが大部分である。このように自己の行動に対して責任感が無いことがとうである。高津ハンドボールの特徴の一つとして、主将は毎年二年生が担当している。これは二年生が三年生に対して頼る。ということもなくし責任感をもたせるといふことが一つのねらいであると思う。だから一年生の諸君も、自分の占めている位置を自覚し、即ち、義務を果たすよう努めてほしい。第二に、三年生にあると思う。クラブ内での行動が下級生に対してどのような影響をおよぼすかということも考えたことがあるだろうか。ここで二度反省すべきだと思う。いくら技術がすぐれていてもチームワークがなければ、絶対といっていいほど、大事故などころでボロを出すものだ。だから僕も高校生活は後3ヶ月しかないが、少しでもクラブのチームワークに対して援助するつもりである。現役諸君も早く自覚してくれ、ことを望みます。次に「精神力」について少し書いておこうと思う。最近の傾向として非常に精神力が弱くなっていくと感ぜられる。恒例の春夏合宿練習をみてもわかると思う。あえてこの紙面に書かなくてむわかんと思うから割愛する。今まで

に一番それが心にしみたのは近畿大会の時である。35年度は奈良県育英高校、36年度は同じく奈良県添上高校に一回戦で敗れたのだ。技術面では絶対に劣っていないのに敗れ去った。何故か、精神力が弱い事である。即ち、根生負けをしたのだ。僕は残念で、たまらない。今書いている時にもその時の様子が頭に浮んでくる。このように悪い悪循環、くりかえしは早く打ち切つて、来年度にはぜひ勝ち進んでもらいたい。クラブと共に部誌の発展を期して筆を置きたいと思う。

## 苦い思い出

前田 宏之

部史の一頁にのせられるかと思つた。どんなことを書いていいのかわからない。ライトフルバックが私にとって一番の思い出がある。それは一年生の六月に行われた全日予選がはじめの試合であった。松倉と二人で、二三年の方に混じつてかたくなつたかもしれないが、一生懸命やった。この三年間へ正味二年半。いろいろなことがあった中では、合宿というもので一年の合宿であったか、途中で首腸になつた者もいて、大変苦しかった練習であった。

しろ、今でいい思い出である。中江さんや服部さんらにコイキしてもらい一週間、朝は早くから日暮れまで練習、そしてうぶ湯で汗を流し、日に汗重が減って行くのである。その結果であろう。九月の団体予選には決勝で桜塚と大接戦を演じ、試合終了前に一点をゆるしそのまゝ勝利を挙げたのが残念でたまらなかつた。

試合に勝つたら次も勝とうと思つてファイトを燃やす。そして心に何かあるものを感ずる。それは確かにその通りで、それは何か一種の優越感、満足感かも知れない。しかし、切り切り切ることには出来ない。又試合に敗れ、その後のなんともいえない気持、汗臭い、暗い部屋で部会を開き、あつてもなかつた。こうでもなかつた。反省して、これからの練習などの予定を立てる。

団体アレーだけに人との和が大へん必要で、そのために苦しい合宿も皆といつしよにするのである。個人アレーより団結し、継横との連絡が、いつも中心で人についていくことは大変むづかしく、なまやさしいものではなからいことを知つたのは、二年生の時だつた。

先輩の練習中における忠告は、いつまでもフラスすることには確かである。この三年間、晴れた日もあり、雨の日も

又雪の日もあつた。だけれど、一度も優勝しないで二位三位といつても可い涙を流しているのであつたのが残念だ。あとから読み返すと何がなんでもわかないが要するにハンドボールをしたことによつてこれからの生活などに何らかの形でアラスマであるうと私は思う。二れから、このクラブ機関誌を通じて先輩と私達が、ハンドボールクラブを今以上にもりあげて行きたいものだ。

二年生

先輩と後輩

松村 圭造

僕がクラブに入ったのは、合宿発表のあった三月二十日だつた。今から考へると全くはずかしいことであるが、中学時代にインントゲッターとして、キャプテンとして活躍できたといううぬほれが、僕を大きく大胆にし、合宿発表を知ると同時に、合宿して下宿する時は合宿中だつたので、合宿ユイトを楽しんでいた。二十三日に始めて練習した。練習を中学当時のように甘く考へていた僕にとつて、その時の激しい練習はとてつと耐えがたかつた。始めてのじかも準備体操の前の運動場五周のラニングで